



13 辰己保

辰己保 議員

防災無線での「庁舎の集約化」放送

Q 町長の地位利用「私物化」ではないのか

A コロナ感染症対策などの町政報告も行った

愛知高校とまちづくりについて
問 愛知高校、愛知高等養護学校とまちづくりについての見識を問う。
答 (町長) 「まちづくり」という観点において、愛知高等学校と愛知高等養護学校の存在は重要である。町内を高校生が行き交うことで賑わいの創出につながる。生徒が、町内の団体や住民と交流することで地域の活性化が図れる。

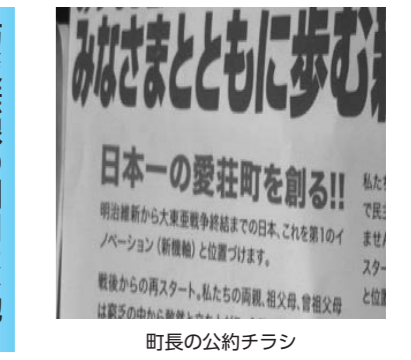
高校の魅力化づくりと行政支援を問う
問 愛知高校・高等養護学校の「魅力化づくり」に行政としての支援を求める。
答 (町長) 新しい生活様式への対応を、小中学校・高校・社会の連続性のなかで捉え、持続可能な形で実施する魅力化づくりに取り組んでいる。高校では「地域共学」の精

町長の時代考証と政治姿勢について
問 明治維新から今日までの歴史を、二つの新機軸ととらえている。町長の時代考証を問う。
答 (町長) 明治維新から太平洋戦争終結までの期間を「民主主義の創成期」として第1の新機軸とし、戦後日本国憲法の施行により参政権が拡大し、民主主義が広く行き渡り、豊かな国となった「民主主義の成熟期」を第2の新機軸と考える。生産年齢人口の割合が低下し、これまでの制度を抜本的に見直さなければ立ち行かない時代に直面している。グローバル化、ICT化が進展するなかで、基礎自治体が多様な施策を展開していかなければならない新たな時代を(第3の)新機軸と捉えた。

第3の新機軸の規定は
問 安倍・菅政治を「世界に誇れる自由で民主的な国をつくる」視点から「第3の新機軸」を規定されているのか。
答 (町長) 安倍・菅政権のもと推し進められている地方創生によって、大きく進められた地方分権社会のもと、新たな時代を創っていかねばと考える。

彦根・ピースフェスタへの後援を取りやめた理由
問 彦根で取り組まれていた「彦根・ピースフェスタ」への後援を、町長就任を機に取り止めた理由は。
答 (町長) 世界平和や核兵器のない世界を願う気持ちは万人共通の思いだが、そこに至るまでの手法や考え方はさまざまに意見が分かれる。そのことを踏まえて、町として後援を行わなかった。

重点施策の達成に向けて
問 重点施策の達成に向けて、どのように進めていくのか。
答 (町長) 過去の経緯等にとらわれない攻めの町政を実現していく。公共施設の集約、地域コミュニティの弱体化、空き家の増加等、将来世代に負担を先送りすることのないよう、重点施策として取り組んでいく。また、教育および地域活力の確保、居心地がよく歩きたくなるまちづくりの構築に取り組んでいく。



町長の公約チラシ

防災無線の活用は、地位利用、「私物化」ではないか
問 防災無線放送は、緊急を要した時が基本。議会での説明と協議もされない中で「庁舎の集約化」の説明を防災無線でされたことは地位利用、「私物化」ではないのか。
答 (町長) 経済対策、感染予防措置などの対策や、愛知中学校の増築工事などの町政報告をしている。公共施設の集約化は、住民への一層の周知の指摘があり、あり方検討委員会から答申を受け、今後町としての方針案をまとめることを伝えた。

今後の重点施策について
問 現在までの自己評価を踏まえて、今後、重点として取り組む施策を問う。
答 (町長) 日頃から各課に出向き、職員に話しかけコミュニケーションを図っている。



町民との対話風景

職員との関係構築はどのようにされているか
答 (町長) 日頃から各課に出向き、職員に話しかけコミュニケーションを図っている。

今後の重点施策について
問 現在までの自己評価を踏まえて、今後、重点として取り組む施策を問う。
答 (町長) 日頃から各課に出向き、職員に話しかけコミュニケーションを図っている。

重点施策の達成に向けて
問 重点施策の達成に向けて、どのように進めていくのか。
答 (町長) 過去の経緯等にとらわれない攻めの町政を実現していく。公共施設の集約、地域コミュニティの弱体化、空き家の増加等、将来世代に負担を先送りすることのないよう、重点施策として取り組んでいく。また、教育および地域活力の確保、居心地がよく歩きたくなるまちづくりの構築に取り組んでいく。



12 竹中秀夫

竹中 秀夫 議員

今後の愛荘町を見据えて

Q 現在までの町長の自己評価を問う

A 問題意識をもって、さまざまな政策に取り組んだ

町長の自己評価について
問 町長就任以来、3年近くが経過している。現時点での町長自身の自己評価を問う。
答 (町長) 全ての世代が参画意識を持って、活力ある町を作り上げていく必要があるとの問題意識のもと、さまざまな政策に取り組んできた。主に、次の5つの政策分野で成果を出してきたものと考えている。
①自治会の活性化
(まるごと活性化プラン導入)
②インフラ整備の加速化
(国道8号の渋滞緩和策など)
③教育の充実
(愛知中学校の更新など)
④住民の生命・身体・財産の保護を実現するための取り組み
(通学路の交通安全対策・愛知川の氾濫防止など)
⑤新型コロナウイルス対策
(国の定額給付金への1万円の上乗せほか)

町民の方々とどう関わったか。議会との関係は、どのように認識しているか
答 (町長) 定例(臨時)全員協議会での報告・共有を通し、町行政の諸課題に対し、日々、協議を重ねていただいている。特に、重要な案件については情報共有を図るとともに、できるだけ早い段階から提案できるように努めていきたい。

町民の方々とどう関わったか
問 町民の方々とどう関わったか。心の高案件も多くあるが、町長のメッセージが「伝わりにくい」「伝わってこない」との声を聞くことがある。町民の場に出向き、わかりやすく町長の考えを伝えるべきと思うが、どのように捉えているか。
答 (町長) 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり町民の方々と対話の機会が少なくなり、町広報誌やホームページを活用した情報発信となっている。町民の方々と、直接、対話する機会を重要であるので、感染症対策をしつつ、住民が集う場に出向き、対話

今日の課題が、さまざまな課題があったと思うが、議会との情報共有は十分か
答 (町長) 日頃から各課に出向き、職員に話しかけコミュニケーションを図っている。

今後の重点施策について
問 現在までの自己評価を踏まえて、今後、重点として取り組む施策を問う。
答 (町長) 日頃から各課に出向き、職員に話しかけコミュニケーションを図っている。

重点施策の達成に向けて
問 重点施策の達成に向けて、どのように進めていくのか。
答 (町長) 過去の経緯等にとらわれない攻めの町政を実現していく。公共施設の集約、地域コミュニティの弱体化、空き家の増加等、将来世代に負担を先送りすることのないよう、重点施策として取り組んでいく。また、教育および地域活力の確保、居心地がよく歩きたくなるまちづくりの構築に取り組んでいく。

重点施策の達成に向けて
問 重点施策の達成に向けて、どのように進めていくのか。
答 (町長) 過去の経緯等にとらわれない攻めの町政を実現していく。公共施設の集約、地域コミュニティの弱体化、空き家の増加等、将来世代に負担を先送りすることのないよう、重点施策として取り組んでいく。また、教育および地域活力の確保、居心地がよく歩きたくなるまちづくりの構築に取り組んでいく。